



---

附属池田小学校事件を語り継いでいくために

---

－ 事件から6年目を迎えて －

平成19年6月8日

---

大阪教育大学管理部附属学校課

582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

e-mail fuzoku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

Tel 072-978-4019

Fax 072-978-3262

大 阪 教 育 大 学

## ■はじめに

大阪教育大学の附属池田小学校に刃物をもった男が侵入し、幼い1・2年生児童をつぎつぎと突き刺した。その結果、8名の児童が亡くなり、13名の児童と2名の教員が負傷するという惨劇が起きた。6年前の平成13年6月8日の午前10時過ぎに起きた5分間程の出来事であった。

この痛ましい事件は、社会に震撼と衝撃を与え、学校の安全神話は、一挙に崩れ去る結果となった。事件はあまりにも悲惨であり、その被害はあまりにも大きく、被害者はもとより数多くの学校関係者や社会の広範な人々にとって、激しい心の痛みなしには振り返ることが出来ない未曾有の出来事であった。

事件後、本学は、犯人の校内への侵入を防ぐことが出来なかったこと、児童の被害を最小限に食い止めることが出来なかったこと等について、遺族、児童、保護者等に謝罪するとともに、全学をあげて再発防止策に取り組み、学校安全の緊急性と重要性を広く社会に伝え、子どもたちの安全確保には教師や大人達による真剣な取り組みが不可欠であることを訴え続けていくことを大学の責務としてきた。

再発防止策への取り組みとして、全教職員の危機対応能力を高めるため、多数の教職員が応急手当普及員の資格を取得して普通救命講習を実施するとともに、定期的な防犯・防災訓練等を実施してきた。また、教員養成大学として危機対応能力や安全意識の高い教員を育成するため、全学生を対象に普通救命講習を継続して実施するとともに、教養基礎科目「学校と安全」を開講し、平成19年度からは新たに教職専門科目「学校安全」を開講するなどして、大学における学校安全に関わる教育研究推進の先導的な役割を果たしてきた。

事件直後には、本学の多数の学生及び教職員が、附属池田小学校の授業再開や児童の被害回復に関わる様々な活動に自発的に参加し、附属池田小学校の児童や保護者たちと事件を分かち合う様々な活動を進めてきたが、事件から6年の歳月が経過する中で、事件当時本学に在籍し、このような活動に参加した学生は、すでに本学を卒業してしまっている。また、教職員についても、事件後に本学に赴任した者が多くなり、事件の実相や詳細を知らない教職員も増えてきている。

本学が、これからも附属池田小学校事件を過去のものとして、事件の教訓を広く社会に伝え、日本の各地で深刻化する学校安全と子どもたちの安全確保の課題に、事件の当該大学としての役割を果たし続けていくためには、まず本学の教職員と学生が、附属池田小学校事件とはどのような事件であったのかを知り、事件の教訓をもとに、学校における子どもたちの安全確保の重要性と教師の使命についての認識を深める地道な取り組みを進めていくことが不可欠である。本冊子が、そのための拠り所として、広く本学の教職員並びに学生に読まれることを期待するものである。

平成19年6月8日  
大阪教育大学長 稲垣 卓



## 祈りと誓いの塔

事件後に全国から寄せられた義援金をもとに  
事件から3年後の平成16年6月8日に附属池田小学校旧正門内側に建立された。  
塔には事件で亡くなった8名の児童の名前が刻まれている。